

清水慎一氏講演会概要

1. 日 時 平成 27 年 2 月 9 日（月） 14：00～15：00
2. 場 所 ホテルメルパルク長野（長野市）
3. 講 師 清水慎一氏
JR 東日本取締役営業部長、同仙台支社長、株式会社ジェイティービー常務取締役などを歴任
現在、観光地域づくりプラットフォーム推進機構会長、立教大学観光学部兼任講師、長野県観光審議会会長など
4. テーマ 「北しなの線の開業と地域活性化」
～「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりと鉄道の役割～
5. 出席者 117 名（自治体 35 名、沿線住民組織・企業 36 名、一般 46 名）＊社員除く
ほか、報道機関 7 社

6. 講演概要

（1）鉄道の機能と地域における役割

- ・ JR からの移管を受けての運営となるが、厳しい経営のなか、お客様サービスを十二分に
にして、かつ自治体負担の軽減を考えないといけない。
- ・ サービスの仕方、要員の配置、地域貢献の仕方など JR と同じことをやったら赤字にな
る。地域との連携が大事である。
- ・ 2000 年の規制緩和以降、廃線が進んだ。廃線をすると沿線の高校に通えなくなり、そ
の地域は高校生が激減した。鉄道の役割について再認識する機運が出てきた。
- ・ 観光において、ファミリー層はマイカーを使うが、団塊の世代、20 代女性、一人旅層
は徹底的に鉄道を使う。観光には鉄道が一番である。
- ・ 観光客が減少している戸倉上山田温泉の一番人気のプログラムは、宿泊客を旅館組合が
姨捨駅へ連れて行くツアーである。
- ・ 駅は地域のアイデンティティ、心の拠り所で、地域の核になる。

（2）第 3 セクターとしての「しなの鉄道」の経営

- ・ 車両の更新問題に多額の費用が必要になる。第三セクターは税金で支えるしかなく、し
なの鉄道の問題は住民自身の問題である。
- ・ 赤字であってもしなの鉄道がなければ困ると思ってもらうことが大事である。
- ・ 地域に支えてもらう一方、鉄道事業者としての努力も必要である。人口減少で定期のお
客様は増えない。新駅設置、自転車の乗車、地域と連携した観光開発などを進めるべき
である。

（3）観光地域づくりに不可欠なブランディング化と観光協会の DMO 化

- ・ 長野県はブランド力が弱い。
- ・ あれもこれもではなく、ここにしかないことの PR をすべきである。
- ・ これからの観光は、観光関係者だけでなく商店街や農家など皆が一緒にならないといけ
ない。
- ・ 発信も、各々の団体がパンフレットをつくるのではなく、一冊を見れば歴史から移動手
段まで何でも分かるようにすべきである。
- ・ 観光は、ブランド化、多様な主体、一元的な発信が重要である。